

2023年6月23日

各位

株式会社北洋銀行

医療法人交雄会様と「ソーシャルローン」の契約を締結しました ～地域の医療体制維持に向けた取組みをサポート～

北洋銀行は、医療法人交雄会様(北海道有珠郡壮瞥町、理事長 三井 慎也様)と「ソーシャルローン」の契約を締結しました。調達資金は、北海道壮瞥町の「そうべつ温泉病院(以下、当院)」の老朽化に伴う移転新築費用に充当されます。なお、本件はソーシャルローンの当行第一号案件です。

壮瞥町で内科機能を有するのは当院のみで、高齢化が進む一次診療圏においても唯一看取りを行っている長期療養型「慢性期」専門の医療機関です。

この度、当院は隣接自治体である伊達市へ移転しますが、訪問診療などの在宅医療や介護保険サービスを拡充することで、壮瞥町住民への医療を切れ目なく提供する体制を構築します。また、移転予定地は札幌からのアクセスが良く、グループ内病院との連携強化や職員の安定した確保等を通じて、**地域から必要とされる医療・介護サービスの永続的な提供**につながります。

北洋銀行は今後も、ソーシャルローン等を通じ、北海道を営業基盤とする金融機関として環境・社会面に前向きに取り組むお客さまをサポートしてまいります。

※ 資金用途を社会貢献性のある事業(ソーシャルプロジェクト)に限定する商品です。株式会社格付投資情報センター様より、ソーシャルローン原則に適合している旨のセカンドオピニオンを取得しています(別紙ご参照)。

記

【医療法人交雄会様の概要】

所在地	北海道有珠郡壮瞥町字南久保内 146-12
理事長	三井 慎也様
創立	1982年12月
診療科目	内科/リハビリテーション科

< 契約記念の様子 >



左：医療法人交雄会
理事長 三井 慎也 様

右：北洋銀行平岸中央支店
支店長 谷 範裕

以上



北洋銀行グループは、2018年12月「北洋 SDGs 宣言」を表明し、地域の持続的成長支援と社会的課題の解決に取り組んでおります。なお、SDGs に関連するプレスリリースには、該当する SDGs のアイコンを明示しております。
【SDGs】2015年の国連サミットで採択された、持続可能な世界を実現するための2030年までの国際目標。17のゴールと169のターゲットで構成される。

< 事業の概要 >

対象プロジェクト	そうべつ温泉病院 移転新築
着工/竣工予定時期	2023年5月/2024年6月
名称	(仮称)交雄会だて病院
所在地	伊達市山下町1-3
施設規模	地上6階、延床面積7,045㎡、病床数180床
新病院の機能	<p>【入院機能】 医療療養病床 60床 ※急性期等での治療後も引き続き医療提供の必要度が高く、病院での療養が継続的に必要な患者様を対象に入院していただく病床</p> <p>介護医療院 120床 ※長期的な医療・介護が必要な高齢者に対して、療養のための医療と日常生活の支援を一体的に提供する施設</p> <p>【外来機能】 現在の内科・リハビリテーション科に加え、新たな診療科を拡充予定。特に、今後、地域において必須となるような診療科を検討。</p> <p>【在宅医療・介護保険サービス】 訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーション、居宅介護支援</p>
職員数	150人

< (仮称)交雄会だて病院 完成イメージ図 >



(2) 対象事業の目標がポジティブな社会的成果であること

対象事業の目標

- 人口減少と高齢化が進む壮瞥町で内科診療サービスの提供を継続する。同一医療圏の中で比較的人口が多く交通の便がよい伊達市に病院を移転して事業基盤を確保した上で、訪問看護、訪問リハビリ、訪問診療、居宅介護支援のサービスを強化することにより、2040年においても壮瞥町の住民が期待する水準の医療・介護サービスを提供できるようにする。
- 一次診療圏では唯一看取りを行う長期療養型の「慢性期」専門の医療機関として事業を継続する。

ポジティブな社会的成果であること

- 目標達成に向けて生じうる直接的・間接的な便益と影響について以下の通り整理した。結果、対象事業が社会全体としてポジティブな成果を生み出していると評価した。

対象事業による便益及び影響	
直接的 ⁴ な便益・影響	<ul style="list-style-type: none"> 壮瞥町の患者が訪問診療等在宅サービスを受けることにより、引き続き内科診療の機会を得ることができる。 西胆振医療圏内において「慢性期」の患者が長期療養を受けることができる。
間接的な便益・影響	<ul style="list-style-type: none"> 交通の便のよい場所に移転することにより、一部の患者や職員の通院が容易になり、療養や仕事と生活とのバランスをとりやすくなる。 これが職員の確保につながり安定したサービスの提供に寄与するほか、グループ内病院との連携強化により地域全体の医療の質向上に貢献する。 患者が安定的な生活を送ることが、家族や周囲の生活に良い影響を及ぼす。 診療機材等の移設の関係から新病院稼働の前後1週間程度、外来診療が停止する可能性があるが、外来の予約調整や初診患者等の訪問診療等にて対応する。外来診療以外の入院患者等については移転による稼働停止はない。 移転工事による近隣地域への影響や既存の患者の治療に関して適切に対処しており、大きな問題は生じない。
広範囲に及ぶ影響とその対応	<ul style="list-style-type: none"> 移転新築とその後の介護サービスの提供に関し、日本全国あるいは地球環境等の広範囲において大きな影響は生じない。


対象事業が関わる持続可能な開発目標(SDGs)との整合

- ICMAの事業カテゴリーとSDGsのマッピングテーブルを参考に、対象事業によるSDGsへの貢献については目標3「すべての人に健康と福祉を」及び目標11「住み続けられるまちづくりを」に対応することを確認した。

⁴ 「直接的」とは対象事業の利用者、「間接的」とは対象事業を行う社会、「広範囲」とは対象事業を行う社会を超える社会を指している。詳細は「R&I ESGファイナンス評価方法 ソーシャルファイナンスのセカンドオピニオン」を参照。https://www.r-i.co.jp/rating/products/ess/so_sof_methodology_jpn.pdf

SDGsアクションプランとの整合

- 日本政府のSDGsの達成へ向けた「SDGsアクションプラン2023」に示された①～⑧の優先課題に関して、本ソーシャルローンの充当事業が特に以下の課題に貢献すると考えられる。

優先課題	対応するSDGsターゲット
② 健康・長寿の達成	

SLPに例示される事業区分との整合

- 対象プロジェクトはSLPに例示されている事業区分「必要不可欠なサービスへのアクセス」に対応し、対象の人々は「伊達市と壮瞥町を中心とした西胆振（登別市、室蘭市、洞爺湖町、豊浦町）の医療・介護を必要とされる住民の皆様」が対象となる。

ソーシャルローンの調達資金は、老朽化が進んだ北海道壮瞥町のそうべつ温泉病院の移転新築費用に全額充当される。壮瞥町で内科機能を有するのは当院のみで、高齢化が進む一次診療圏においては唯一看取りを行う長期療養型の「慢性期」専門の医療機関でもある。壮瞥町は全国的にも過疎化の著しい地域であり、事業の存続を保ちながら地域で必要とされる医療・介護サービスの質を提供し続けるのは難しい。今後も介護需要が見込まれる同一診療圏内の伊達市に移転することで地域の医療体制を守る。移転予定地は札幌市からJR直通で約90分と交通の便がよく、グループ病院間で職員を融通しやすくなる。現職員の8割が伊達市から通勤していることから日々の通勤負担も緩和される。移転により既存の患者・利用者が医療サービスを受けられなくなった場合にネガティブな影響が考えられるが、当院は「壮瞥町の住民への医療を切れ目なく提供していく」ことを重点課題としており、訪問診療等の在宅医療・介護保険サービスを拡充するなどして負の影響を出さないようにプロジェクトを計画している。SLP2023に例示されている事業区分では「伊達市と壮瞥町を中心とした西胆振（登別市、室蘭市、洞爺湖町、豊浦町）の医療・介護を必要とされる住民」を対象とした「必要不可欠なサービスへのアクセス」に該当する。



交雄会グループ SDGs宣言

2022年2月17日
交雄会グループ
理事長 三井 慎也

SDGsの達成に向けた取組

交雄会グループは、人と社会、人と自然が共生・共存していける豊かな環境を目指すというグループ理念に基づき、国連が提唱する「持続可能な開発目標（SDGs）」に賛同し、医療・介護・教育を通じて、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

健康な未来社会に向けて

地域の皆さまのつながりを大切に、全世代が健康で、住み慣れた地域で暮らし続けることができる社会の実現に取り組んでまいります。

【具体的な取組】

- ・医療、介護、教育機関、住民等との連携
- ・学生等の職場体験、施設見学の実施
- ・地域人材採用の推進
- ・地域イベントへの参加
- ・地域食材を使用した食事の提供
- ・良質な医療、介護、教育の提供



働きやすい職場環境づくり

職員一人ひとりが、健康でいきいきと明るく働きがいを感じ、多様な働き方ができる職場環境づくりに努めてまいります。

【具体的な取組】

- ・定期健康診断、ストレスチェックの実施
- ・女性管理職登用の推進
- ・産休、育休、介護休暇制度の充実
- ・ハラスメント防止方針の策定、相談窓口の設置
- ・社内研修、職場研修の実施
- ・テレワークの導入



安心・安全な医療・介護・教育の提供

自然災害や緊急事態、個人情報と情報セキュリティの保護など、さまざまなリスクに対応できる体制を構築し、サービスの向上と事業の継続に努めてまいります。

【具体的な取組】

- ・事業継続計画(BCP)の策定
- ・安全衛生講習会の実施
- ・危機管理広報体制の整備
- ・個人情報保護方針の策定
- ・定期的な防災訓練の実施
- ・内部通報制度、相談窓口の設置



自然環境への配慮

豊かで恵まれた自然環境を保護するとともに、持続可能な自然環境社会の実現に向けて、省エネルギー、リサイクル活動等に取り組んでまいります。

【具体的な取組】

- ・ごみ分別の徹底
- ・プラスチック製品の使用削減
- ・太陽光エネルギー、温泉水熱の利用
- ・ハイブリッド車両の導入
- ・照明のLED化
- ・環境問題教育、研修の実施



SDGsとは

SDGsとは、Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称で、2015年9月に国連で採択された2030年までの国際目標。「地球上の誰一人取り残さない」をスローガンに、持続可能な社会の実現を目指しており、経済・社会・環境などの分野で17の目標と169のターゲットで構成されています。

対象事業が関わる持続可能な開発目標(SDGs)との整合

ICMAの事業カテゴリーとSDGsのマッピングテーブルを参考に、対象事業によるSDGsへの貢献については目標3「すべての人に健康と福祉を」及び目標11「住み続けられるまちづくりを」に対応することを確認した。

SDGsアクションプランとの整合


日本政府のSDGsの達成へ向けた「SDGsアクションプラン2023」に示された①～⑧の優先課題に関して、本ソーシャルローンの充当事業が特に以下の課題に貢献すると考えられる。

優先課題

対応するSDGsターゲット

(1) 健康・長寿の達成



(仮)  医療法人 交雄会
交雄会だて病院

●概要

建築場所 北海道伊達市山下町1番3(敷地面積 5,821.31㎡)
地上5階建 延べ床面積 7,057.15㎡

2024年秋 開設予定



2023年12月6日



- ◆ そうべつ温泉病院における地域の医療体制維持に向けた取り組み
～伊達市への移転リニューアル～
- ◆ 交雄会新さっぽろ病院における取り組み事例

- ◆ 交雄会新さっぽろ病院における取り組み事例



社会医療法人 交雄会メディカル

交雄会新さっぽろ病院



2022年7月 新さっぽろ駅前再開発地区に移転リニューアル
移転時に(旧)記念塔病院から名称変更

より親身により身近に



社会医療法人 交雄会メディカル
交雄会新さっぽろ病院
KOYUKAI Shin-Sapporo Hosp.



〔理念〕

地域社会のために、命の尊厳を守る
良質な医療を提供します。

基本方針

安全で安心な患者主体の医療を目指します。
思いやりのある心温まる信頼関係を築きます。
きめ細やかな説明に努めます。
地域との連携につとめ、開かれた病院を目指します。



■ 受付時間

平日 午前 8:45~11:30 午後 13:15~16:30
土曜 午前 8:45~11:30

■ 診療時間

日曜・祝日・お盆・年末年始は休診
平日 午前 9:00~12:00 午後 13:30~17:00
土曜 午前 9:00~12:00

■ 診療科目

内科 消化器内科 内視鏡内科 人工透析内科
循環器内科 リハビリテーション科
●内視鏡センター・血液浄化センター(透析)

■ 病床数(185床)

回復期リハビリ病棟 44床 地域包括ケア病棟 41床
医療療養病棟 100床

理事長 三井 慎也 院長 渡 二郎

5F 療養病棟

4F 療養病棟

3F 地域包括ケア病棟(西病棟)
回復期リハビリテーション病棟(東病棟)

空中歩廊直結フロア

2F 総合受付・外来・健診
内視鏡センター
リハビリテーションセンター

1F 血液浄化センター(人工透析)



地域医療ニーズに応える 新時代のケアミックス病床

医療療養病床 (4F病棟・5F病棟)

・急性期治療の治療を終えても、引き続き医療提供の必要度が高く、病院での療養が継続的に必要な患者さまを対象にご利用いただく病棟。

回復期リハビリ病棟 (3F東病棟)

・留卒中、骨折などの急性期治療後の患者様に対しご自宅への退院や社会復帰のために集中的にリハビリテーションを行う病棟。

地域包括ケア病棟 (3F西病棟)

・住み慣れた地域で安心して生活を続けていただくために、必要な治療やリハビリを行いお体の状態を整える病棟です。患者様・ご家族のニーズに合わせて、最大60日間のサポートをさせていただきます。



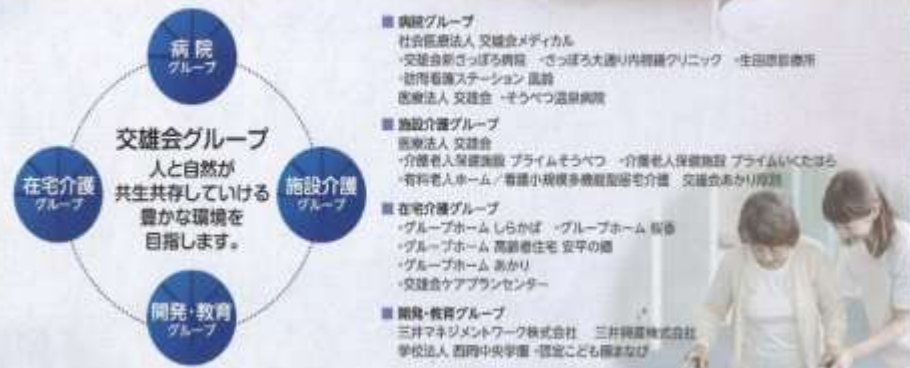
消化器がんの早期発見・早期治療を目指す 2F 内視鏡センター

- ・国内トップクラスの施設と同じ最新の内視鏡機器を使用しています。
- ・人工知能 (AI) を用いて、ポリープなどの見落としを減らします。
- ・すべての検査・治療を日本消化器内視鏡学会の専門医 / 指導医が直接行います。
- ・鎮静剤を用いて苦痛なく検査を受けられます。(胃カメラ、大腸カメラ)
- ・大腸の小ポリープはその場で切除します。
- ・土曜日も胃カメラ検査を受けられます。
- ・入院での検査も可能です。(日帰り入院も可能)



次世代型エネルギーセンターとの連携 1F 血液浄化センター (人工透析)

- ・超純水レベルの水を使用した透析液を使用します。
- ・質の高い透析を目指し、全台オンラインHDF (血液濾過透析) 対応。
- ・区域内のエネルギーセンターと連携し、災害に強く安心した治療を提供いたします。
- ・WiFi環境を完備し、開放感のある広い空間で透析をお受けいただけます。
- ・自宅から病院まで、車両による送迎も行います。



医療都市「新さっぽろエリア」

3つの病院とメディカルビルが隣接、さらには医療の未来を担う若者が集まる街

新さっぽろ駅周辺地区は、JR千代田線（有明線）に「新さっぽろ駅」を新設し、その周辺に3つの病院と1棟のメディカルビルを隣接させることにより、徒歩圏内に3つの病院と1棟のメディカルビルが隣接し、医療の未来を担う若者が集まる街を実現しています。



交通アクセス

すべての交通網が集約され、生活の利便性と豊かな緑が広がる街

駅・商業施設が屋内空中歩廊「アクティブリンク」で直結 (予定)

- 地下鉄東西線「新さっぽろ駅」7番出口より徒歩3分
- JR千代田線 (快速エアポート・普通列車)「新札幌駅」
- バスセンター「新札幌駅前」
- 車・タクシー
道安自動車道「大谷地インター」または「札幌南インター」
平均所要時間約10分
※ 駐車場をご利用の場合、病院周辺の立体駐車場をご利用ください。
(空中歩廊「アクティブリンク」直結)



交雄会グループ SDGs宣言

SDGsの達成に向けた取組

交雄会グループは、人と社会、人と自然が共生・共存していける豊かな環境を目指すというグループ理念に基づき、環境が持続する「持続可能な開発目標 (SDGs)」に賛同し、医療・介護・教育を通じて、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

- 健康な未来社会に向けて**
地域の皆さまとのつながりを大切にし、全世代が健康で、生き生きとした暮らしを送ることが出来る社会の実現に貢献してまいります。
- 安心・安全な医療・介護・教育の提供**
自然災害や感染症、個人情報や情報セキュリティの保護など、さまざまなリスクに備える体制を整え、サービスの向上と事業の発展に努めます。
- 働きやすい職場環境づくり**
職員の一人ひとりが、健康でいかに働くことが出来るよう働き、多様な働き方ができる職場環境づくりに努めてまいります。
- 自然環境への配慮**
豊かで美しい自然環境を保護するとともに、持続可能な開発目標の達成に向けて、SDGsをテーマに、さまざまな活動に取り組んでまいります。

社会医療法人 交雄会メディカル

交雄会新さっぽろ病院

T004-0051 札幌市厚別区厚別中央1条6丁目2-5 TEL 011-801-1212 FAX 011-801-1213
https://www.kss-hp.or.jp または 交雄会新さっぽろ病院



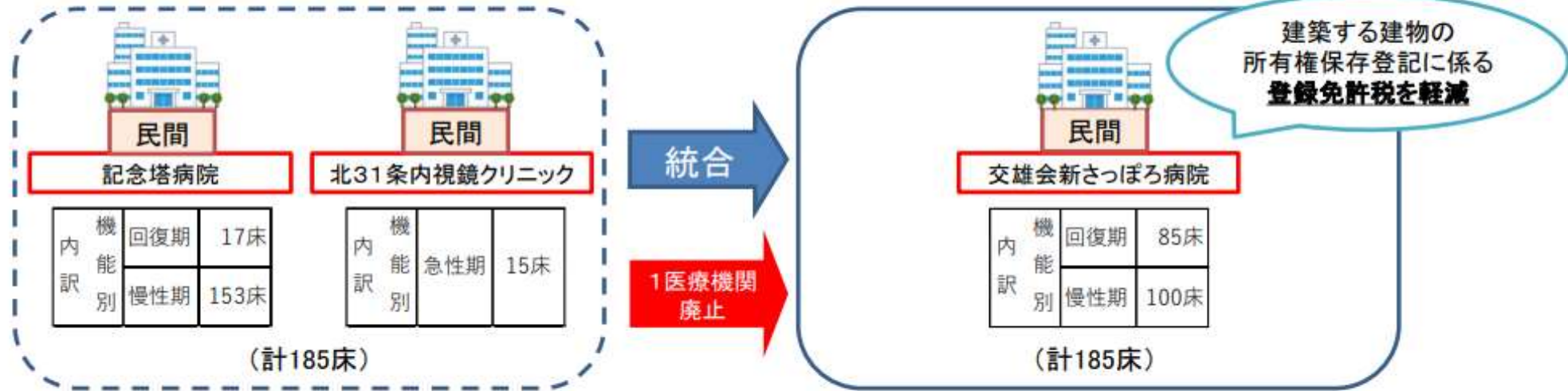
交雄会グループ 社会医療法人 交雄会メディカル

当院2階 訪問看護ステーション 風鈴

TEL 011-351-2137

訪問エリア ■ 厚別区 ■ 白石区 ■ 清田区 ■ 江別市 (一部を除く) ■ 北広島市 (西の里)

- 病院と有床診療所を再編し、急性期機能と慢性期機能の一部を転換し、構想区域で不足する在宅復帰に向けた医療やリハビリを提供する回復期医療を担う。



(参考)再編計画のスケジュール

令和2年12月	再編計画の内容について地域医療構想調整会議で協議	} 再編計画認定手続き
令和4年2月	再編計画の申請(医療法人より、北海道を經由して厚生労働省に申請) ※	
令和4年3月	厚生労働大臣より再編計画認定	
令和4年7月	新病院移転開業	} 税制優遇措置手続き
令和4年8月	登録免許税に係る「租税特別措置法適用証明書」の申請(医療法人より厚生労働省に申請) ※	
	「租税特別措置法適用証明書」の交付(厚生労働省より医療法人に交付) ※	
	登録免許税減免適用(登記の申請書に「租税特別措置法適用証明書」を添付の上、登記)	

※令和4年10月より厚生(支)局に移管

最後に

- ◆ 病院の建て替えや機能の転換等に際しては、外部環境や内部環境をしっかりと精査し、計画にあたっては現在と未来の医療情勢や社会情勢を十分に考慮する必要がある。
- ◆ 行政の支援策や金融機関の支援策の情報収集と有効に活用することが肝要と考える
- ◆ スピード感とタイミングが極めて重要（logicalではありませんが…）

2025年は「地域医療構想」の最終年であり、次期改定は地域医療構想も踏まえた内容となることが予想されます。

ちなみに、地域医療構想とは、将来人口推計をもとに2025年に必要となる病床数を医療機能ごとに推計した上で、地域の医療関係者の協議を通じて病床の機能分化と連携を進め、効率的な医療提供体制を実現する取り組みです。

政府は、今後の超高齢社会にも耐えうる医療提供体制を構築するため、2014年6月に「医療介護総合確保推進法」を成立させ、そこで「地域医療構想」が制度化されました。

背景にあるのは、わが国の超高齢社会の問題です。わが国では団塊の世代（ベビーブーマー）が75歳以上となる2025年から、第2次ベビーブーマーが65歳以上となる2040年まで、医療・介護のニーズが継続して増加すると予測されています。このため、2025年に備えて、医療・介護サービスの提供体制の整備が進められております。



謝 辞

常日頃支えてくれているグループの職員の皆さんに大変感謝申し上げます。



ご清聴ありがとうございました

HOKKAIDO LOVE!